



19 六郷の渡し跡
 多摩川の河口付近は六郷川と呼ばれていた。慶長5年(1600)に橋が架けられたが、大洪水で流されてしまい、以降、渡船に切り替わった。江戸の玄関口の渡し場として、交通上極めて重要な地であった。当初は江戸川の町民が渡船を担っていたが、後に川崎宿が許可を得て請負うようになった。
 現在の橋は、昭和59年(1984)に架けられたもの。写真は渡し跡にある公園。

18 六郷神社
 天喜5年(1057)、源頼義・義家の父子が奥州へ向かう折、この地の老杉に白旗を立てて勝利を祈願したところ、勝利をおさめたので、凱旋後に創建したと伝えられている。毎年1月7日に行われる「七草子ども流鏑馬祭」は、東京都の無形民俗文化財に指定されている。神社には、慶長5年(1600)に架けられた木造六郷橋の橋柱がある。

17 妙安寺
 池上本門寺の末寺で、京急蒲田駅のすぐ南側にある。小田原北条氏の有力家臣・行方氏ゆかりの寺である。永禄年間(1588~70)、行方修理亮義安の妻・妙安尼が夫の死後に、兄斎藤政賢の屋敷に建立した。斎藤氏屋敷跡としても知られている。

16 聖蹟梅屋敷公園
 江戸時代の道中常備軍「和重殿」を商って繁栄した山本家が、名を継いで造った梅林の跡である。旅人相手の休みや茶屋を聞いたこともあって、江戸とともに梅の名所としてぎわった。広重の浮世絵「江戸名所百景」にも描かれている。かつては皇族も立ち寄った梅の名園であり、園内には紅白あわせて日本あまりの梅の木がある。

15 磐井の井戸
 延喜年間(901~922)にはすでに存在していたという磐井神社。その磐井神社のすぐ前に「磐井の井戸」がある。もとは神社境内にあったが、今は境内から外れて歩道の端に残されたかたちになっている。かつては東海道の旅人たちがこの清水を飲み、墨水として人気があった。ただし「心正しき者が飲めば真水、邪心があれば塩水になる」といふ言い伝えがある。現在は残念ながら使用できない。

14 しながわ水族館
 約450種類、10,000点の生物がいる。品川は大森貝塚や海水浴場、海苔の養殖など、海と緑の深い土地である。そこで海や川との「ふれあい」をテーマに、平成3年に誕生した。魚の泳ぐ中を通り抜ける「トンネル水槽」や、サメを間近に見られる「シャークホール」など本格的な設備がある。休館:1月1日、火曜(春、夏、冬休み)、GWは営業。

東京国道事務所 東京国道 検索
<http://www.ktr.mlit.go.jp/toukoku/>
 国土交通省関東地方整備局 東京国道事務所
 〒102-8340 東京都千代田区九段南1-2-1 九段第3合同庁舎 15・16階
 TEL.03-3512-9090 FAX.03-3512-9889
 【最寄り駅】東京メトロ東西線・半蔵門線・都営新宿線九段下駅(6番出口)から徒歩約5分です。

この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都都市整備局および東京都防災局(平成16年度)の提供を受けたものである。
 この地図は、東京都都市整備局および東京都防災局(平成16年度)の提供を受けたものである。
 (承認番号) 19都市基交 第412号 (承認番号) 19都市共第 022号

東海道

日本橋 ▶ 新橋 ▶ 品川 ▶ 大森 ▶ 新六郷橋(多摩川)

東京国道
マップ

災害時に役立つ、防災拠点情報が入ってます。ぜひ、活用下さい。

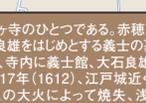
- 国道
- JR線
- 区役所
- 一般病院・医院
- その他の道路
- 私鉄線
- 学校
- 東京災害拠点病院
- 首都高速
- 地下鉄線
- 郵便局
- 救急指定病院
- 旧東海道
- 都県境界
- 警察
- 広域避難場所
- 旧街道ルート
- 区境
- 消防署
- 帰宅困難者支援施設
- 公園・緑地
- 0.0km 日本橋からの距離
- 公署
- コンビニ
- ホテル
- 消防署
- 給水所/応急給水槽
- 寺院
- 神社
- 銭湯

9 原美術館



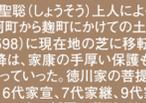
閑静な住宅街にある。現代美術の専門館。建物は1938年に邸宅として建てられたもので、昭和初期の建築史を探索し上からも貴重な存在といわれる。休館:月曜日(祝日の場合は翌日休)、展示替え期間、年末年始

8 泉岳寺



曹洞宗江戸三ヶ寺のひとつである。赤穂藩主・浅野長矩と大石良雄をはじめとする義士の墓(国史跡)でも知られ、寺内に義士館、大石良雄銅像などがある。慶長17年(1612)、江戸城近くに創建されたが、寛永の大火によって焼失、浅野家ほか、五大名の協力によって現在地に再建された。現在地に再建された。浅野家との縁はこのときに始まる。寺には諸国の修行僧が集まり、禅の修行をしたと伝えられている。

6 増上寺



明徳4年(1393)、聖聡(しょうそう)上人によって開基された。当初は平河町から麹町にかけての土地であったが、慶長3年(1598)に現在の地に移転した。江戸幕府の成立以降は、徳川家の菩提寺として選ばれ、2代秀忠、6代家宣、7代家継、9代家重、12代家慶、14代家茂の6人の将軍の墓所がある。

4 ヤン・ヨーステン記念碑



八重洲の地名は、オランダ人ヤン・ヨーステンに由来する。航海士として、イギリス人航海長ウィリアム・アダマス(三浦按針)らとともに、慶長5年(1600)、豊後(大分県)に漂着。江戸に出て、家康の外交貿易の顧問となり、日本橋に屋敷を与えられた。

2 日本橋



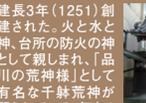
慶長8年(1603)、江戸開幕年に架橋。翌年、五街道の基点と定められた。日本橋は今も国道の起点になっている。現在の橋は明治44年(1911)に架けられたもので、石造2連アーチ橋として国の重要文化財に指定されている。

1 日本国道路元標



日本の道路の基点として日本橋に設置されている。江戸時代の一里塚になっていた。明治政府が設置した。現在、元標は橋の真ん中にあり、複製が北橋橋詰に設置されている。

13 海雲寺(千鉢荒神)



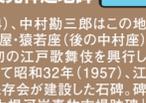
建長3年(1251)創建された。火と水と神、台所の防火の神として親しまれ、「品川の荒神様」として有名な千鉢荒神が祀られている。毎年3月と11月の27・28日は千鉢荒神祭があり、多くの露店と参拝者でにぎわう。参拝者は荒神さまを祀った小さなお宮を風呂敷に包み、首にかけて参拝し、帰りは寄り道したり盛り返ったりせず、家に持ち帰らなければならないとされている。

7 高輪大木戸跡



江戸の町は要所ごとに木戸が設けられていた。二間(3.6m)の柱の間に両開きの扉をつけ、木戸番小屋が設けられた。犯罪人の監視など治安維持が目的で、夜間は検問があった。大きいものを大木戸といい、高輪や甲州街道の四谷・板橋は取り壊されたが、高輪大木戸は一部(片側の石垣)のこっている。

5 江戸歌舞伎発祥之地碑



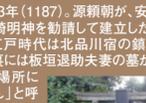
寛永元年(1624)、中村勘三郎はこの地で常設の芝居小屋・猿蓑座(後の中村座)を旗揚げし、最初の江戸歌舞伎を興行した。これを記念して昭和32年(1957)、江戸歌舞伎旧史保存会が建設した石碑。碑の裏には「京橋大根河岸青物市場跡碑」もある。

11 御殿山下台場跡



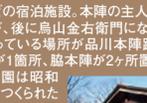
嘉永6年(1853)、ペリ・艦隊来航を契機に、幕府は品川沖に11ヶ所の台場(砲台)を造る計画を立てた。しかし、翌年の安政元年(1854)に第1~第3台場、御殿山下台場が完成したところまでで工事は中止となった。現在、台場小学校があるあたりが御殿山下台場跡であり、計画された台場のうちで唯一の連続であった。校庭に、台場の石垣の石でできた碑が建てられている。

10 品川神社



創建は文治3年(1197)。源頼朝が、安房国(千葉県)の州崎明神を勧請して建立したと伝えられている。江戸時代は北品川宿の鎮守であった。神社の裏には板垣退助夫妻の墓がある。国道に面した場所に「お富士さん」と呼ばれる、高さ6メートルの富士山を模した品川富士があり、毎年7月1日に山開きが行われる。

12 品川宿本陣跡



本陣は大名などの宿泊施設。本陣の主人は鶴岡市郎右衛門だったが、後に高山金右衛門になった。現在、聖跡公園となっている場所が品川本陣跡である。品川宿には本陣が1箇所、脇本陣が2ヶ所置かれていたという。聖跡公園は昭和13年(1938)につくられた公園だが、聖跡の名は明治元年(1868)、明治天皇が東京に行幸の際、この本陣で宿泊されたことが由来となっている。

